

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1071 2009年6月号

「工石山(赤良木園地)に木造展望台完成」

嶺北森林管理署管内の工石山レクリエーションの森に高知工業高校建築学科の生徒がヒノキの展望台を作製しました。展望台から高知市街地や太平洋の眺めを楽しんだり、休憩所として利用できます。

【詳細は4頁以降に掲載】



展望台完成記念



第1回技術開発委員会

六月五日、四国森林管理局において、今年度一回目の技術開発委員会を開催しました。技術開発委員会は、森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家等外部委員で構成されています。今回は平成二十年度に実施した技術開発課題の調査結果等とそれらを踏まえた二十年度の技術開発実施計画について意見を伺いました。

委員会は、「天然林におけるスギ天然更新技術の確立」(安芸署管内)をはじめ九課題と、平成二十一年度を初期として新たに策定する四国森林管理局技術開発目標について審議を行いました。

委員から①ニホンジカ等の生息地周辺では、ニホンジカ等との共生(被害を受ける前提で)を念頭においた試験地の設定も必要ではないか、②モミ・ツガ等の天然更新試験地の設定について、モミ・ツガ等の更新の状況が思わしくないことから、人為的ギャップ(モミ・ツガ等の稚樹が発生、成育しやすくするため林内に人手を加えて作る一定の空間)による調査プロットを追加してデータを蓄積していくという意見等が出された一方、現状の自然ギャップ(倒木や枯死により明るい環境が林内に生じた空間)調査プロットで更新の推移を見守るべきではないかという意見も出されました。

今回頂きましたこれら貴重な意見等を踏まえて今後の試験地設定のあり方などを検討していくこととしています。

技術開発課題に貴重な意見を
第一回技術開発委員会を開催

〈指導普及課〉



治山・林道工事コンクール

平成二十年度の受賞者表彰式

〈総務課〉



「平成二十年度治山・林道工事コンクール」の受賞者の表彰式が五月二十二日、高知商工会館で行われ、次の方々が受賞されました。(敬称略)

◎四国森林管理局局長賞表彰

〔治山部門〕

◎多田工業(株)

代表取締役

◎(株)山岡組

代表取締役

多田 裕

山岡 保利

◎明治建設(有)

代表取締役

◎高大建設(株)

代表取締役社長

また、二月九日に林野庁において、表彰を受けた方々の披露も同時に行われました。

山崎 一志

◎林野庁長官表彰

◎湯浅建設(株)

代表取締役

◎林野庁長官感謝状

◎拓明建設(株)

代表取締役

湯浅 雅文

永井 将司

「嶺北材ブランド化協議会」

林野庁長官感謝状

贈呈される

国民の森林づくり推進功労者

〈総務課〉

五月九日、十日、東京都日比谷公園で開催された「森林の市」で、国民の森林づくり推進功労者として当局から推薦しました、「嶺北材ブランド

化協議会」(会長 田岡秀昭氏)が林野庁長官感謝状を贈呈されました。

地元の製材業者等で構成されている同協議会は、国有林材を含む地元の木材を製材工場であらかじめ基本構造(柱や梁等)をプレカット工場加工し、住宅キット「れいほくスケルトン」として商品化しています。

この住宅キットを、建築現場まで直送して現地を組み立てる方法で、一棟分(約一〇〇㎡)当たりの木材価格が一〇〇万円と価格を明確にし「国産の木材は高い」というイメージを払しょくしました。

これにより、この住宅キットで家を建てたいと言う方の





声が、県外を中心に高まり、今後、一年間に一〇〇棟の販売が計画されており、別の地域でもこのような取組が広がることが期待されます。

こうした国有林材を含む国産材の需要拡大、安定的流通の確保への貢献していること、また、林野庁の「農林水産物等海外販路創出・拡大委託事業」の一〇団体の中の一団体として、今年二月に韓国ソウルにも住宅キット「れいほくスケルトン」を出店し、海外へ向けての国産材の需要拡大にも貢献していることなどが評価されたものです。

シンジメズ (10)

地

域の

声

森林ボランティア団体

「森の応援団・さんりん倶楽部」

高知県山林協会 永野 俊彦



森林ボランティア団体「森の応援団・さんりん倶楽部」は、平成一七年四月「森林保全ボランティア団体」として十二番目に登録され、今年四月で設立四年目となりました。

「森の応援団・さんりん倶楽部」とは、間伐等の森林保全活動を通して会員の森林ボランティアの必要性と理解を深め、森林・林業の普及啓発に努めることを目的に設立された、社団法人高知県山林協会の役員全員四名で構成されています。

本倶楽部では、発足当時から県立障害者スポーツセンターのテニスコートに隣接する竹林整備に取り組んでいま

す。コート東側にモウソウ竹が繁茂し日光を遮ることや、コートにササの葉が落ちるなどの声が利用者から相次いだことから、本倶楽部が一役買うことになりました。

今年で五回目となるこの活動は、四月一八日に実施しました。早朝からメンバー十名が集合し、草刈機三台、チェーンソー三台を用意して作業に取りかかりました。竹林間伐を四年間つづけているのでモウソウ竹の繁殖力も弱くなったように思います。その反面、地面には太陽光が降り注



四国山の日賞表彰式

いることが評価され「四国山の日賞、森林整備部門」を受賞することができ、今後の活動の励みとなりました。

ぎ、雑草の勢力が旺盛となり、主に除草作業となりました。四月半ばというのに暑い日差しの中、全員汗だくの活動となりました。今後は竹林を保全しつつ、低木の広葉樹や実のなる樹木の成長を助けるなど、健全な森づくりを進める計画です。幸い林床に目を向けると、ヤブムラサキやヤブツバキ、オンツツジなどの幼木が確認でき、竹林整備の成果があったように思います。

また、昨年十一月には、「四国山の日」のイベントが高知県立甫喜ヶ峰森林公園で開催されました。その中で、本倶楽部は下刈りや、間伐など森づくり活動に計画的に取り組んでいることや、森林整備に必要な技術の習得など人材育成に取り組んで

森林保全ボランティア団体

は、平成十四年の五団体から、現在は五倍以上の二十七団体、約九百人が県内各地において地域と密着した活動を展開しています。これらの団体のネットワーク化をはかるために平成十七年七月に「こうち山の日ボランティアネットワーク」を設立しました。本倶楽部は同ネットワークの事務局となり、ボランティア団体への加入の問い合わせや、チェーンソーを用いたボランティア作業安全研修の実施などをおこない、会員相互の情報交換や行政との連絡調整など、積極的に進めることで森林ボランティア活動を県民のみなさまにより知っていただくことになりました。

今後は、森林ボランティア団体の活動が、山村地域の振興につながり、自分自身で森林整備に取り組む自伐林家を増やすきっかけになればと思っています。山村の活性化、山村再生が図られ、高知の山が元気になる日を楽しみにしています。